

修士論文(要旨)

2015年1月

北京市の1980年代に生まれた一人っ子の親のソーシャル
サポートに関する研究

指導 白澤政和 教授

老年学研究科

老年学専攻

213J6005

田雪晴

Master's Thesis(Abstract)

January 2015

Research on Social Support for Parents of Single Children born in Beijing in the 1980s

Xueqing Tian

213J6005

Master's Program in Gerontology

Graduate School Gerontology

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Masakazu Sirasawa

目次

第1章	研究の背景と目的	1
第2章	先行研究	1
2.1	研究目的	1
第3章	研究方法	1
3.1	研究対象	1
3.2	調査項目	1
1)	独立変数	1
2)	従属変数	2
3.3	分析方法	2
第4章	結果	2
4.1	配偶者がいる場合のソーシャルサポート	2
4.2	配偶者がいないと仮定する場合のソーシャルサポート	2
	参考文献	

第1章 研究の背景と目的

中国における「一人っ子政策」は1979年から実施された。「一人っ子政策」は「一つの家族は子供を一人しか持てない」という政策である。25年を経て、こうした極端な少子高齢化により、これからの家族は、高齢者4人、夫婦2人そして子供1人、即ち「4・2・1」の家庭モデルに変化しており、さらに、子供は就労、就学、結婚のため、家から独立して生活する場合が少なくない。核家族化とともに、伝統的な家族扶養機能は崩れ、高齢者の扶養を社会化しなければならなくなっている⁴⁾。

第2章 先行研究

【介護】:北京市については、「中国民生発展報告 2012」では、2011年の一人暮らし高齢者は13.2%に上っている。2005年の北京の人口1%のサンプル調査によれば、34%は一人暮らし高齢者である。一人暮らしの女性高齢者の比率は女性高齢者人口の80%を占めている。施設については、2011年に北京市の老人ホームは401ヶ所で、ベッド数は7万近くである⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾。

【経済】北京民政局によると、北京市朝陽区の年金は2034元/月であり、平均貯金は9.6万元、90.4%の高齢者は経済上の基本的な保障をうけている。78.9%の高齢者は生活上大体満足している状況である。確かに北京市の収入は全国と比べると高い、しかし、病気になった時、治療、介護の費用が加えると、生活が満足できない状況になる¹¹⁾¹²⁾。

【情緒】:北京市民政局の「在宅サービス体系建設研究」によると、高齢者の社会活動はテレビやラジオの視聴、散歩、新聞を読むなどの単独活動に集中している、社会の接触をすること少ないと指摘している。北京市朝陽区の高齢者のうつ状況の調査によると、うつ傾向の比率は26.5%、うつは5.6%だった¹⁴⁾。

2.1 研究目的

本研究では、一人っ子の親が「情緒的サポート」「経済的サポート」「介護的サポート」を子供とその配偶者に求める場合の要因を明らかにすることにある。最も大きいサポート源とである配偶者がいるかいないかで、子供とその配偶者にサポートを求める程度が大きく異なることを考慮して、配偶者がいる場合と配偶者がいない場合に分けて尋ね、分析することとした。さらに、3つのサポートには、親の状況、親の子供との関係、親の子ども以外との関係、の3つの領域が影響すると仮定して研究の枠組みをつくり、3つの領域のどのような項目が影響するかを探索的に分析することとした。

第3章 研究方法

3.1 研究対象

調査対象:北京市で1980年1月1日から1989年12月31日に生まれた一人っ子の親、一つの家庭の父親もしくは母親のうちの一人を対象にして、自記式調査を依頼する。

調査人数:性別はソーシャルサポートの重要な関連要因として検証するため、性別が一方に偏らないよう配慮し、半数になるよう依頼し、男性100名と女性100名の総計200に配布した。

調査方法:機縁法

調査は2014年8月1日から31日の1か月間であったが、157人から回答が届いた。該当者以外の回答者と半分以上回答していない調査票を除くと、有効回答数は146人になり、回収率78.5%、有効回答率は73%であった。

3.2 調査項目

1) 独立変数

【回答者の状況】:「年齢」、「性別」、「学歴」、「婚姻状況」、「就業状況」、「生活余裕感」、「孤独感」。

【回答者と子供との関連状況】:「子供と住む距離」、「子供との交流頻度(メールや電話)」、「子供との直

接会う頻度」、「過去1年間の子供からのお金の支援の有無」。

【回答者と子供以外との関連状況】:「近隣との直接会う頻度」、「友人や職場の人との会う頻度」、「親族との直接会う頻度」。

2) 従属変数

【配偶者がいる場合の情緒的サポート】、【配偶者がいる場合の経済的サポート】、【配偶者がいる場合の介護的サポート】、【配偶者がいないと仮定する場合の情緒的サポート】、【配偶者がいないと仮定する場合の経済的サポート】、【配偶者がいないと仮定する場合の介護的サポート】、の6つに分けた。供給源として、「配偶者」「子供・その配偶者」「親・兄弟姉妹」「その他の親族」「友人や職場の同僚」「近隣の人」、「専門家・サービス機関」に分けた。

3.3 分析方法

分析方法については、まず【回答者の状況】、【回答者と子供との関連状況】、【回答者と他人の関連状況】を単純集計する、その次に、配偶者いる場合と配偶者いない場合の独立変数とソーシャルサポートの関連を検討するために、現状の中には配偶者いない状況を除外して、6種類のソーシャルサポートの点数を従属変数として、強制投入法による重回帰分析をおこなった。また、回答者一人一人の欠落項目の種類が違うことやデータ集合を整えるために、欠損値は平均値で置換にした。分析には、IBM SPSS Statistics 22を用いた。

第4章 結果と考察

4.1 配偶者がいる場合のソーシャルサポート

【情緒的サポート】:〈女性〉が子供からのサポートを期待している。友人や職場の人との直接会う頻度が高いほど、〈子供・子供の配偶者〉からの情緒的サポートの期待が低くなる。【経済的サポート】:「過去1年間の子供からのお金の支援の有無」については、支援「あり」の人は今後も子供からの経済的サポートを期待することになる。【介護的サポート】:〈女性〉は〈男性〉以上に子どもからの介護的サポートを期待している。〈子供との会う頻度〉とは負相関があった。普段子供とあまり会わない人は、子供からの介護的サポートを期待していないと感じており、クロス集計をすると、子供あまり会わない人が、子供との住む距離が遠い、子供とのメールや電話などの手段的交流頻度が低いなどの傾向があり、介護サポートでは、子供との接触機会が子供に期待することが関係しているといえる。

4.2 配偶者がいないと仮定する場合のソーシャルサポート分析

【情緒的サポート】:「年齢」が高くほど、子供からの情緒的サポートを期待している。〈友人や職場の人との会う頻度〉高い程、子供からの情緒的サポートの提供は低くなる。【経済的サポート】:「子供との交流頻度(メールや電話)」が高く、「過去1年間の子供からのお金の支援の有無」にていて〈あり〉、「近隣との会う頻度」が低く人が子供からの経済的サポートをきたいしている。【介護的サポート】:「子供との交流頻度(メールや電話)」が高く、「友人や職場の人との会う頻度」が低い人が子供からのサポートが期待している。【情緒的サポート】、【経済的サポート】と【介護的サポート】は全て「学歴」と関連がある。クロス集計すると、「学歴」は「年齢」、「就業状況」、「子供との住む距離」、「生活余裕感」、「子供と直接会う頻度」、「近隣との直接会う頻度」、「孤独感」との関係がある。重回帰分析を見ると、「年齢」「直接子供との会う頻度」「直接近隣との会う頻度」がサポートによって有意差がみられるため、学歴が高いほど、「子供・子供の配偶者」からのサポートへの期待が大きくなる。

参考文献

- 1) 彭希哲 「老龄化社会面临的主要问题及对策」 『東方早報網』
(<http://www.dfdaily.com/html/63/2012/9/10/858997.html> 2014.10.20 アクセス) (2012)
- 2) 中華人民共和国国家統計局. 「2011 中国統計年鑑」 『. 中国統計出版社』
(<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsjsj/2011/indexch.htm> 2014.10.20 アクセス) (2011)
- 3) 北京市民政局 「居家養老サービス体系建設研究—以北京市發展居家養老サービス実践例をととして」
北京民政
(<http://www.bjmzj.gov.cn/templet/mzj/ShowArticle.jsp?id=103639> 2014.10.20 アクセス)
(2013)
- 4) 大和三重 :中国における高齢者介護の行方—蘇州市の事例から—. 関西学院大学社会学部紀要、
第 97 号 57-70 2004
- 5) 中国民政局 「中国民政事業發展報告—老年福祉—」 2008.11
- 6) 老齡弁事処 「高齢者藍皮書」 『社会科学文献出版社』 2013
- 7) 梁春玉 高橋謙造 王徳文 石紅梅 丸井英二 「中国における初代目一人っ子の親世代の高齢者
介護に関する意識(第 1 報)」 『民族衛生』 第 71 卷 第 6 号 2005 年 235-243
- 8) 宋健 「農村人口収入保障と養老經濟サポートについて研究」 博士論文 2002
- 9) 孫静, 張新宇, 尹兵, 劉晶 「我国における在宅支援サービス産業の現状」 『全科護理』 2684,
2010
- 10) 吳玉韶 「中国高齢者事業發展報告(2013)」 『社会科学文献出版社』 2013.2
- 11) 陳星宇 「農村一人暮らし生活状況と政策意見—アモイ市の基づいて—」 『前沿』 第 7 期
2009
- 12) 吳婕 「中国における高齢者介護サービスに関する研究 - 浙江省杭州市の事例を参考にして
-」 一橋大学・国際公共政策教育部 公共經濟プログラム修士 2 年 2013 年 1 月
- 13) 姜波 「中国全土に推進される在宅介護サービス事業の現状と課題」 『川崎医療福祉学会
誌』 Vol. 21 No. 1 2011 1 - 9
- 14) 韓榮芝 「中国の高齢化と養老保障問題に関する研究」 『長崎国際大学論業』 第 4 卷 2004
183-191
- 15) 崔麗娟 秦茵 「老人ホーム高齢者ソーシャルネットワークと生活満足度について研究」 『心
理科学』 2001 Vol. 24 No. 4 425-428
- 16) 来嶋 和美 『対人援助の基礎と実際』 第 6 章「ソーシャルサポート」 82-89 ミネルブア書
房 1993
- 17) 肖水源 「社会支持評定量表」 『中国心理衛生雜誌 SSRS』 4 (2) 98-100
- 18) 王大華 申继亮 佟雁 「高齢者と未成年子供とのソーシャルサポートの構造と特徴」 『中
国心理衛生雜誌』 2005 Vol. 17 No. 11 749-782
- 19) 許伝新 陳国華 「ソーシャルワーク規模と高齢者生活満足度との関係」 『統計と決策』
2004 Vol. 9 69-70
- 20) 李偉旭 「都会初代目一人っ子の親の養老家庭支持力について研究」 『首都經濟貿易大学 修
士論文』 2008.3